

出会いと別れ そして その家族は今…

『家で最期を迎えたい』という高齢者の願いに「ケアホーム希望」を開設して2年が経ち、そして、14名の利用者の別れに立ち会いました。大切な人を失った家族は、その悲しみを受け止め、その悲しみを抱えながら少しずつ立ち直っていかねばなりません。

一生懸命に介護をした家族ほど『もっと こうしてあげていれば良かったかな?』と、後悔を口にする家族は多いようです。

～愛する妻を亡くした Kさんの家族は今…～

Kさんは、40歳の時に大病をし、人生の約半分が病気との闘いだった。いつも前向きで、入退院を繰り返しながら『私は家に帰るんだから!』と、家族に支えられ闘病を続けたKさんだったが、平成26年7月(享年78歳)に天国へと旅立っていった。

大好きな母を亡くした娘は、精神的に落ち込み、車椅子のお年寄りを見ると涙が止まらなくなり、家に引きこもり気味に…。そんな時、母親が可愛がっていた愛犬のリッキーが、娘のそばから離れなかった。娘は「リッキーは、母の代わりに励ましてくれていた」と…。

そんな母との別れの悲しみが、癒えない中 父にも病気が見つかり、今年2月に入院し、そして手術を経験した。

Kさんの夫は、初めて「妻は病気で寝たきりになっても、強い気持ちを持って家族のために生きていたのだ」と、改めて感じた。

手術後の経過は順調で、これまでと同様に、大好きな囲碁仲間達との集まりや、電車を乗り継いでの旅行へ出かけている。「家に帰ってきて『おかえり~』と、言ってくれる妻がいない寂しい生活に、ようやく慣れてきたころかな…」と、苦笑いをする。部屋の壁には妻の写真がいっぱい飾ってある。

私たち職員は、人生の最期の場に立ち会えることができ、一生懸命に生きてきた人達のそれぞれの人生に、敬意をはらい数多くのことを学ばせていただいていることに深く感謝しています。

そして その家族との絆をいつまでも大切にし、心新たに「ケアホーム希望」の3年目を迎えたい。 < 職員一同 >



山梨のぶどうをお土産にと「ケアホーム希望」へ届けにきてくれました。



今年も柿もぎ体験してきました！



調布でも柿もぎが出来ちゃうのよね～

90歳過ぎのおばあさんでも簡単に採れるもんだね

早く食べたい！

立派で大きな柿がこんなに近くで簡単に摘めるなんて

秋の音楽会

ヴァイオリン演奏

ハーモニカ演奏



私は三味線をやってたんだよ

『さん、はい！』

民謡はさんさ時雨が好き♪

社内勉強会開催



毎月、介護職員のスキルアップを目的とした勉強会を行っております。今月は往診医の高橋ドクターにも同席していただき、利用者さん一人一人のケア内容や今後のプランなどについて、確認と、共有、そして担当医からの専門的意見なども踏まえてのカンファレンスを行っています。

